

トビケラの仲間

トビケラの仲間の幼虫は、①肢(あし)が6本ある、②翅包(しほう：成虫になって翅-はね-になるところ)がない、③ほとんどが巣を作る、などの特徴がある。
成虫は、翅を屋根型(三角テント型)に重ねるのが特徴。



ヒゲナガカワトビケラの幼虫(左)と成虫(右上)
エグリトビケラの仲間の巣(右下)

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原)
鳥類
シタカ

ヤマトビケラ属の仲間

Agapetus sp.

ヤマトビケラ科

形態的特徴

幼虫の特徴：体長5mm程度。第9腹節背面にキチン板があり、尾肢鉤爪の背側に葉がある。カメの甲羅に似た、携巢(入ったまま移動できる巣)を作る。

成虫の特徴：体長約8~11mm。前翅長約6~9mmの小型種で、触角は全長の3分の2程度の長さ。翅の色は黒色である。

類似種と見分け方：ナガレトビケラ科。

ナガレトビケラ科の尾肢は長く後方に伸びる。また巣を作らない。

名前の由来

山地の溪流に生息する種が多いためと考えられる。「トビケラ」は不明。漢字名：山飛虻



ヤマトビケラと携巢のイメージ

参照：アングラーのための水生昆虫フィールドノート

生息環境・分布

源流から中流域の流れの緩やかな場所に生息する。

環境省・国交省水質調査：「きれいな水」の指標。

分布：国外分布は、不明。

国内分布は、北海道~九州。

北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

付着藻類を餌とする。

魚類などの餌となる。

繁殖生態・寿命

日中河岸の植物上で交尾をしていることが多い。

5~7月成虫は出現する。

興味深い話

■ヤマトビケラ属全体の特徴までは容易に同定(種類を見分けること)できるが、ヤマトビケラ属幼虫の中で種までは同定できない。

■十勝地方のアイヌ語ではトビケラ類幼虫を「ウォルンカムイ」という。

配慮事項

清潔な河川に生息するため水質が重要となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期	■					■			■			
成虫期						■						

参考文献

「アングラーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力 出版文化社 2000

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「原色川虫図鑑」谷田一三 全国農村教育協会 2000

「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

「水辺の昆虫」今森光彦 山と溪谷社 2000

「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」

知里真志保、平凡社 1976